越後の植物観察記（その８）

木村　彰

文中[　]内は1:50,000図金井式メッシュ（測地系はJGD2000）と環境庁メッシュ（Tokyo測地系）であるが，稀産種については保護上の観点から後者を記していない。海抜は国土地理院『数値地図50mメッシュ（標高）CD-ROM版』によっている。

Ⅰ 帰化種，国内帰化・逸出種

○ヤセウツボ　*Orobanche minor* Sm.　（ハマウツボ科）

村上市勝木　15m　[勝木393383-14，勝木5739-54-82]（写真１：2010年６月13日）

村上市府屋　３m　[温海393384-11，鼠ヶ関5739-64-12]（写真２：2010年６月19日）

府屋駅北側から大川河口にかけての７号線沿いの歩道緑地帯には極めて多くの花茎が確認でき，勝木の交差点にも20本ほどの花茎を確認した。寄主はシロツメクサ，アカツメクサが多く，状況的にはイワニガナなどキク科勢も含まれると推定されるが，根は寄主から外れやすい上に環境的にも一個人が勝手に掘り起こすのは無理であり，確認できていない。府屋では黄軸白花の個体も見られ，こうした黄軸白花や黄軸黄花の変異個体をキバナヤセウツボ var. *flava* Regelとする文献もあるが，ただの白花個体であれば，品種レベルになる筈であり，原記載も確認できていないので，変種に分類されたものと同一視してよいのか疑問が残る。なお，府屋では隣接してベニバナセンブリも見られた。

○ショクヨウガヤツリ　*Cyperus esculentus* L.　（カヤツリグサ科）

新潟市中央区湖南　１m　[新潟391376-11，新潟南部5639-60-53]（写真３：2010年９月17日）

既に2003年に日本雑草学会が行った分布調査で新潟から報告がある（当時，インターネット上で公開されていたが，現在は見ることができないようである）が，『新潟県植物目録[チェックリスト]（予報）維管束植物・コケ植物』には含まれていないことから，留意的に記しておく。2010年には上記の新潟市中央区湖南の歩道内の植え升で持ち込みと思われるハマスゲと混生しているのを確認した。

Ⅱ在来種

○ミズアオイ　*Monochoria korsakowii* Regel et Maack　（ミズアオイ科，県：絶滅危惧Ⅱ）

新潟市江南区横越　４m　[新潟391376-31]（写真４：2010年10月３日）

『新潟市レッドデータブック』で当地点を年に調査した際には確認できなかったが，その後，河川敷が工事で撹乱され，大量のキクモ，ホザキノフサモと共にミズアオイが出現するようになった。当地点では個体数は少ないが，隣接する地点でも人為的撹乱の後に多数の出芽を確認している（その後再び工事で閉鎖され，花期は観察できなかった）。近年，信濃川河川敷でも人為的撹乱の後にミズアオイの発生が報告されており，本種の保全の上で参考になればと思い記載した。

○ヤガミスゲ　*Carex maackii* Maxim.　（カヤツリグサ科，県：準絶滅危惧）

新潟市江南区横越　４m　[新潟391376-31]（写真５：2010年６月５日）

阿賀野川からは既に松浜，濁川，本所，阿賀浦（以上，笹川1986），六郷（石沢2004）等の報告があるが，上記地点を追加する。『新潟市レッドデータブック』の調査の折に脱漏していたものである。

○ヒメコウガイゼキショウ　*Juncus bufonius* L.　（イグサ科）

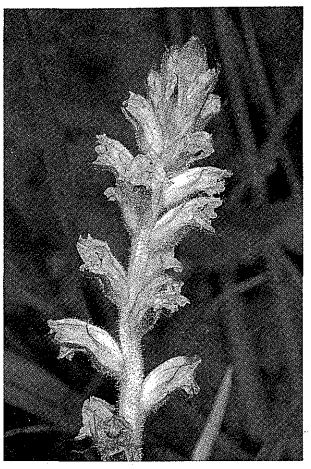
新潟市江南区横越　４m　[新潟391376-31，水原5639-6143]（写真６：2010年６月20日）

新潟市北区高森　１m　[新潟391376-32，水原5639-6182]

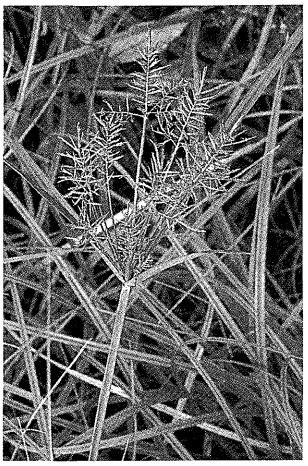
県内では村松浜，内野上新田（以上，池上2010），新津市（現・新潟市秋葉区）蒲ヶ沢，西蒲原郡分水町渡部，五泉市赤梅（以上，石沢2005），早出川橋上流，仙見川出合い（以上，犬飼1981）の記録があり，県によっては絶滅危惧種としているところもあるが，近年，各地から帰化品ではないかとする報告もある。新津のものはその後消失した（石沢先生）とのことであるが，新潟市域の阿賀野川河川敷にも見られ，こちらは2009年，2010年と範囲は狭いものの，個体数は多く，旺盛に生育している。

なお，昨年の本誌でシラホシムグラを河川敷で見ない旨記載したが，高森では阿賀野川堤防にシラホシムグラの生育を確認した。

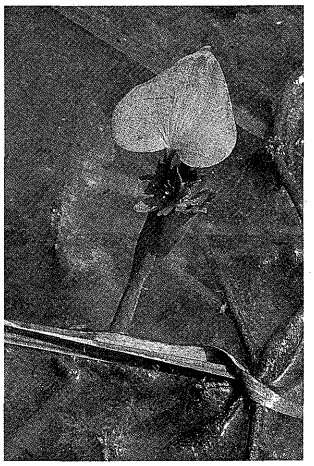
[写真1]ヤセウツボ(勝木)



[写真２]ヤセウツボ(府屋，生育状況と黄軸白花品)



[写真３]ショクヨウガヤツリ(花茎，塊根，地下茎)



[写真４]ミズアオイ

[写真５]ヤガミスゲ

[写真６]ヒメコウガイゼキショウ

[写真７]ミズワラビ

[写真８]ガガブタ

○ミズワラビ　*Ceratopteris thalictroides*（L.）Brongn.　（ミズワラビ科，県：準絶滅危惧）
　村上市福田　4ｍ　［中条392381-34］（写真７:2010年10月３日）
県北部の分布を追加する。清水尚之氏と荒川河口を調査中に確認したもので，耕作田に生育し，個体数は少ない。

Ⅲ雑録

○新潟市中央区新和のアブノメ *Dopatrium junceum*（Roxb.）Buch.-Ham. ex Benth.他の消滅
本誌2005に新潟市中央区新和のアブノメ(新潟市：絶滅危惧Ⅱ)，同じく2003に同所のミズワラビ(新潟市:準絶滅危惧)を記したが，当該地点は2009年には稲作が中止され，2010年には整地されたことにより，いずれも消滅した。市街地に囲まれながら残っていた田圃で，同所にはキクモ(新潟市：準絶滅危惧)，マツモ(新潟市：絶滅危惧Ⅱ)といった『新潟市レッドデータブック』掲載種も生育していた地点であった。

○阿賀野市じゅんさい池のガガブタ *Nymphoides indica*（L.）Kuntze（写真８:2010年８月13日）
現在，阿賀野市のじゅんさい池ではガガブタが繁茂しているが，過去には記録がなかったものである。近隣では福島潟，十二潟，清潟に分布するが，天然に分布を拡大した可能性だけでなく，人為的な投げ込みも否定できない。後者とすれば，下越では極めて稀少となったオグラノフサモの生育地が脅かされる危険性もある。不自然なガガブタは過去にも枡潟で見たことがあり，阿賀野市では湿原に園芸品種のサギソウが植えられていたこともあるので，不安を払拭し得ないが，県内自生植物の網羅的なフロラがないまま，勝手な自然破壊行為が行われていないことを祈念したい。

[参考文献]

米倉浩司・梶田忠(2003～) BG Plants 和名－学名インデックス（YList），
http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html
帰化植物メーリング・リスト(2002～)，連絡先 naturplant-admin@ml.affrc.go.jp
植物同好じねんじょ会(2005)　新潟県植物目録[チェックリスト](予報)維管束植物・コケ植物，新潟県植物目録編集委員会
清水建美編(2003) 日本の帰化植物，平凡社
澁谷知子・森田弘彦(2005) 雑草モノグラフ:3.ショクヨウガヤツリ(*Cyperus esculentus* L.)，雑草研究50(1):30-41，日本雑草学会
新潟県環境生活部環境企画課(2001) レッドデータブックにいがた－新潟県の保護上重要な野生生物－
新潟市(2010) 大切にしたい野生生物～新潟市レッドデータブック～
櫻井幸枝・藤塚治義(2010) 新潟県長岡市信濃川河川敷の人為的撹乱と植生の記録について，長岡市立科学博物館研究報告45:45-48
稲垣栄洋・栗山由佳子・前島固女・石上恭平(2007) 湿地ブルドーザを利用した撹乱依存型絶滅危惧植物ミズアオイとオオアブノメ群落保全の取り組み(<特集>第38回大会)，日本緑化工学会誌33(1):235-238
笹川通博(1986) ヤガミスゲ，新潟県植物分布図集第７集:385-386，植物同好じねんじょ会
池上義信(2010) 新潟県植物誌[遺稿]，じねんじょ特別報告第２号：7-24，植物同好じねんじょ会
石沢進(2005) 分布上顕著な新津の植物(4)，新津植物資料室年報2004:1-5，積雪地域植物研究所(新津植物資料室)
犬飼哲夫(1981) 早出川河辺の植生と好窒素性植物について，創立20周年記念誌 五泉・村松の自然と理科教育:28-33，五泉市理科教育センター
登坂裕一(1988) ミズワラビ，新潟県植物分布図集第９集:11-12，植物同好じねんじょ会
清水尚之(2005) 亀田郷土地改良区でミズワラビ大発生，新潟県植物保護37:5-6，新潟県植物保護協会
登坂裕一・平山亜希子・石沢進(2002) 植物目録，笹神村史 資料編５ 自然：247-275，笹神村